

第2学年 学級活動（人権）学習指導案

1 主題 共に生きる

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

様々な人との関わりを通して、自他の人権を尊重し合い、共にによりよく生きるために自ら行動しようとする実践力を養う。

4 指導計画

あったか言葉・ちくちく言葉

3時間

自分の発言をふりかえろう（学級活動）3時間

誰もが安心できる学級にするための課題を話し合い
生徒自身の発言を見直す活動を通して、自分も相手も
大切にできるような実践力を養う。

講演会 「こころの授業」

（臨床心理士 大西尚子さん）

ストレスの克服の仕方を学び、自
分と向き合うことの大切さを考え
る。

誰もが暮らしやすい町へ

3時間

「その子の世界、私の世界」（道徳科）1時間

「誰もが暮らしやすい町を考えよう」（学級活動）2時間

どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、様々な人
が暮らす町を誰もが暮らしやすくする方法を話し合いな
がら、様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる
他者との共生について考えを深め、互いの人権を尊重し
合う態度を育てる。

講演会 「日本人の忘れ物」

（徳島県人権教育指導員 太田光俊さん）

元青年海外協力隊の方の体験談
を聞くことにより、視野を広げ、
国境を越えた人とのつながりの素
晴らしさを感じとる。

高齢者と自分

3時間

「身近な高齢者」（総合的な学習の時間）3時間

身近な高齢者を取り巻く問題を調べ、疑似体験を通し
て、人権問題を自分事として考え、今の自分たちにでき
ることを実践しようとする意欲を高めるとともに行動に
つなげる。

高齢者疑似体験

（徳島県介護実習普及センター）

身体的不自由さや高齢者の心情
を知り高齢者への思いやりの心を
もち、行動に移す実践力を養う。

共に生きる

3時間

「避難所運営のために」（総合的な学習の時間）2時間

「安心な教室にするために」（学級活動）1時間（本時）

体験学習から誰もが安心できる避難所づくりを考え、互
いの意見を交わす活動を通して、学級全員が安心して過ご
せる教室について話し合い、互いの立場や個性などを認め
合いながら、相手を思いやる態度を育てる。

避難所運営体験

（南部県民局 防災出前授業）

様々な避難者を想定し、それぞれ
の人権を大切にできる避難所運営を
考えることで、自分のできることを
考え行動に移す実践力を養う。

5 本時の学習

(1) 目 標

誰もが安心できる避難所づくりを通して、仲間の意見を受けとめたり、自分の意見を伝えたりすることで、学級全員が安心して過ごせる教室について考え、互いの立場や個性などを認め合い、相手を思いやる態度を高める。

(2) 普遍的な学習のテーマ 個人情報課題名

共に生きる
災害時における人権問題

(3) 展 開

学 習 活 動	指導上の留意点
1 前時の学習を振り返る。	○避難所生活での課題や安心できる避難所をつくるために必要なことを想起させる。
2 発表内容から共通していることを考える。	○すべての人が安心できる避難所にするために相手を思いやる気持ちが大切なことに気付かせる。 ①②
学級全員が安心して過ごせる教室にするために必要なことはなんだろう	
3 安心して過ごせる教室にするために必要なことを考え、発表する。	○安心して過ごせる教室とはどのような教室か考えさせ、級友とのつながりを意識し、自分だけでなく級友も過ごしやすい教室を考えさせる。 ①②
4 本時のまとめをする。	

(4) 評 価

・互いの立場や個性などを認め合い、相手を思いやる態度を高めることができたか。

(価値的・態度的側面)①

・仲間の意見を受けとめ、自分の意見を伝えることができたか。

(技能的側面)②